

西暦 2024 年 8 月 26 日 第 1 版
(臨床研究に関する公開情報)

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 胸部大動脈 3D-CTAngiography(血管撮影)における造影剤注入法の検討

[研究責任者] 医療技術局 放射線室 鈴木佑奈

[研究の背景]

胸部大動脈の造影 CT 検査では、鎖骨下静脈や上大静脈での造影剤残存によるアーチファクト*の発生が問題となります。当院では、アーチファクトの発生を軽減させるため、胸部大動脈の造影 CT 検査では造影剤注入から生理食塩水注入に手動で切り換えるスイッチを用いた撮影(以下:従来法)を行っていましたが、従来法ではアーチファクトが目立つ症例が散見していました。そこで、先行研究としてある造影剤注入後、造影剤と生理食塩水を混注して注入する(以下:台形クロス注入法)での撮影を試みましたが、従来法と比べアーチファクトの軽減が認められませんでした。原因として考えられるのが、撮影開始タイミングを個人の血流速度に合わせることで、造影剤と生理食塩水を混合して注入している途中で撮影が始まると、アーチファクトが残る可能性があると考えられました。混合注入により粘稠度が低下したタイミングで生理食塩水に切り替えれば、アーチファクトの原因となる鎖骨下静脈や上大静脈での造影剤残存がより軽減できると考えます。

*アーチファクト

「人工産物」という意味で、画像に現れるノイズを指します。動きや金属など X 線を透過しにくい物を撮影した時に発生します。

[研究の目的]

胸部大動脈の造影 CT において従来法と、台形クロス注入法後に従来法を合わせた造影剤注入法について、造影効果やアーチファクトの有無の比較を行い、どちらが有用な造影剤注入法か検討します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

西暦 2022 年 4 月 13 日から西暦 2024 年 8 月 2 日の間に当院にて胸部大動脈 CT 検査を受けた方

●研究期間：西暦 2024 年 9 月 4 日から西暦 2024 年 9 月 15 日

●利用する検体、カルテ情報

検体：特になし

カルテ情報：既往歴(大動脈瘤、大動脈解離等)、CT 画像、体重(kg)

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

医療技術局 放射線室 鈴木佑奈

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913